

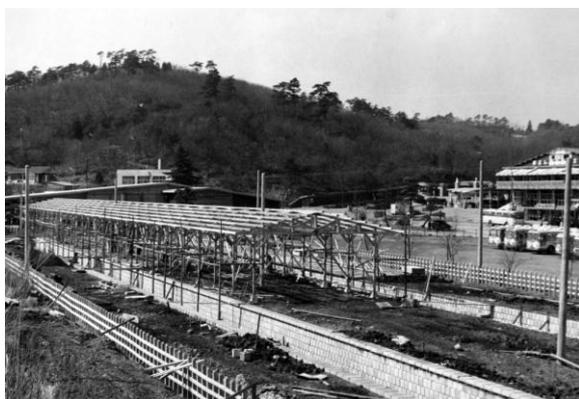
日野の歴史と民俗136号

多摩動物公園線の開通

昭和33年（1958）5月5日、程久保に都立多摩動物公園が開園しました。開園初日は京王線や中央線の駅から動物園までの道路に、人と車があふれ、長い列が出来たといわれます。この日の推定入場者数は25万人、帰路も多くの人が中央線日野駅まで歩いたといわれます。

8月になってようやく、高幡不動駅と動物園正門を結ぶ京王バスの運行が始まりました（同38年7月に多摩テックまで延長）。

このように、バスのみだった多摩動物公園へのアクセスを便利にしたのは、京王線多摩動物公園線の開通です。もともと京王帝都電鉄は、沿線の行楽スポットを充実させるために、動物園の誘致に積極的に動いていたこともあり、鉄道敷設も開園と同時に計画されていました。高幡不動駅から多摩動物公園前までの約2キロメートルを結ぶ多摩動物公園線は、昭和38年9月着工で突貫工事が始まり、翌39年4月29日、ゴールデンウィークを前にあわただしく営業を開始しました。前日の28日に行なわれた開通式では、チンパンジーやロバたちが来賓を乗せた祝賀列車をホームで「お出迎え」しました。



【図1】建設中の多摩動物公園駅舎



【図2】多摩動物公園線開通式

動物公園線の開通からやや遅れて、5月にはライオン園がオープンし、バスに乗車したまま放し飼いにしたライオンを間近に見ることができる東洋初の施設として、人気を集めました。

当時の日野市広報（第154号 昭和39年5月20日発行）を見ると、動物公園線はさらに由木村（現・八王子市）を経て横浜線橋本駅（神奈川県相模原市）まで延伸する計画があったように書かれています。当時の由木村は、八王子市との合併か、日野市への分村かをめぐって村議会が紛糾している最中でした（昭和39年8月に八王子市へ編入）。由

木村の合併問題との関係はよく分かりませんが、延伸計画は実現しませんでした。



【図3】開通後間もない多摩動物公園線（吉崎日出男氏撮影）

2両編成の電車が走る。背後の丘陵が、いま高幡台団地のある場所。

昭和 53 年に中央大学多摩校舎が出来ると、最寄駅となった多摩動物公園駅は大学へ通学・通勤する人びとで、利用者数が一段と増えました。近年は多摩モノレールの開通（平成 12 年）やバス路線の充実もあり、多摩動物公園線の利用客は減少傾向にあるようですが、新宿からの直通運転やラッピング車両「TAMA ZOO TRAIN」の導入（平成 14 年）など、動物園を訪れる人びとの便利で楽しい足として、今なお愛されています。

（郷土資料館 矢口祥有里）

【お問合せ】日野市郷土資料館 電話042-592-0981